

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター研修【第6回】

11月1日(水)13:00~15:00 県総合社会教育センター 受講者10名

1 趣旨

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上とネットワーク形成を図ることを目的に、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得のための研修を行う。

2 内容

【講義】「社会教育関係職員の資質向上」

講師 岩手県生涯学習振興協会

事務局長 佐々木 勉 氏



3 講義要旨

- ファシリテーションとは、相互コミュニケーション力の向上を図りながら、お互いの合意形成を促す「参加型学習」を円滑に進める技法です。
- 熟議（CS での協議の手法）とは、多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくことです。当事者が自分の役割を果たすようになることが、熟議の最終目的です。
- 学校運営協議会で協議（熟議）される重点課題を明確にし、解決策を図る過程を通して、具体的な地域学校協働活動がみえてくるのです。
- 社会教育関係職員の資質向上のためには、コミュニケーション能力とファシリテーション能力を高めることが重要です。また、社会教育専門職として、地域課題解決や地域学校協働活動に生かす知の循環型社会の構築に努めましょう。

4 受講者の感想から

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のそれぞれの役割と、これらを一体的に推進する意義を整理することができました。演習で実際に体験することで、熟議の大切なポイントに気づくことができました。
- ・模擬熟議は、今まで体験した中で一番本質に迫るものでした。「社会教育はみんなを幸せにするツール」という最初の言葉が印象的で、佐々木先生がそれを実践していた研修会だったと思いました。
- ・たくさんのワークショップの手法について学ぶことができて良かったです。佐々木先生の世界観に引き込まれ、楽しく「なんちゃって熟議」も体験できました。

本研修第6回目は、「社会教育関係職員の資質向上」というテーマについて、佐々木氏より、「参加型学習」の重要な役割と、ファシリテーションの技術向上のための視点について教示いただきました。整理された講義と楽しみながら参加できる演習は、受講者の方にとって貴重な研修の機会となりました。

